

平成 24 年度臨床研修プログラム（概要版）

I. プログラム名 『新潟県魚沼地域病院群臨床研修プログラム（基幹型研修）』

II. プログラムの目標と特徴

（1）プログラムの基本目標：

県立十日町病院を基幹型として、新潟県魚沼地域の県立病院群（県立小出病院、県立六日町病院、県立松代病院）を中心に、新潟大学医歯学総合病院を協力病院として、協力施設（十日町保健所）をあわせ、プライマリ・ケアの基本的技術習得と地域医療を研修する。

研修にあたっては、EBMに根ざした安全な医療を、患者さんの視点に立ち、さらに地域特性を考慮して遂行できる医師となることを目標とする。言い換えると、大都市にはない地域特性による社会的ニーズを把握し、医師としての人格を涵養し、将来望まれる医師の態度を身につけるよう努力する。

研修目標：

- ① 基本的疾患のプライマリ・ケアを習得する。特に救急・災害医療の初期診療を学んで、安全な医療を遂行するとともに、適切な時期に専門医に紹介できる医師になる。
- ② 患者・家族や地域特性による要請を把握し、チーム医療の構成員として医療を実践し、疾病の予防や生活管理に至るまで、人と地域に深く交わり、心身両面から指導できる医師になる。
- ③ 医療情報や診療記録を正しく記載・管理でき、正確に伝達できる医師になる。医学研究や人格形成のため、生涯にわたる自己学習態度を身につけ、社会貢献に努力する医師になる。

（2）プログラムの特徴

新潟県立十日町病院は病床数 275 床、十日町圏域の地域中核病院として、財団法人日本医療機能評価機構による一般病院種別 B（平成 22 年度受審し、更新予定）の認定基準を達成し、平成 4 年から僻地中核病院の指定を受け無医地区の巡回診療を行っている。十日町圏域（対象人口 7 万余）の救急診療（時間外受診患者数 10,000 余人/年、救急車搬入数約 1,800 件/年）を積極的に受入れ、平成 21 年 1 月よりスポット型ドクターカー運用を開始した。AHA の BLS 講習や ICLS 講習を開催し、JPTEC 受講も勧めており、中山間地の救急医療実践には積極的であり、平成 21 年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受章した。新潟県災害医療拠点病院に加えて、平成 20 年 2 月から DMAT 病院の指定を受けている。

協力病院としては新潟県魚沼地域中核病院である県立小出病院、県立六日町病院がある。選択研修では新潟大学医歯学総合病院にお願いしている。地域医療には豪雪・僻地を担当する県立松代病院や積極的臨床研修支援を行っている小千谷市魚沼市川口町医師会、十日町保健所など、公立病院、地域医師会、行政の協力を得ている。プライマリ・ケアはもちろん、中山間豪雪、高齢化・過疎・僻地、中越・中越沖地震被災などの地域特性を備えた医療研修環境が整っている。

プログラムは 1 年目の基本研修として内科 6 ヶ月、救急・麻酔 3 ヶ月、外科 2 ヶ月、地域医療 1 ヶ月、2 年目の選択研修として必修選択研修（産婦人科・小児科・精神科）2 ヶ月と自由選択研修 10 ヶ月を行う 24 ヶ月研修である。選択研修科目の選択時期は研修開始後 3 ヶ月頃を予定し、研修を体験してから選択可能にする。

研修プログラムイメージ

1 年目 基本研修			
内科 6 ヶ月	救急・麻酔 3 ヶ月	外科 2 ヶ月	地域医療 1 ヶ月
2 年目 選択研修			
選択研修 （産婦人科・小児科 ・精神科） 2 ヶ月	選択研修 10 ヶ月		

Ⅲ. プログラム責任者と臨床研修管理委員会

プログラムの作成・管理にあたっては、新潟県立十日町病院長 塚田芳久が下記委員会を統括指揮する。

管理委員会

委員長	塚田芳久	県立十日町病院長	プログラム責任者
副委員長	吉田和清	県立六日町病院長	
副委員長	布施克也	県立小出病院長	
副委員長	鈴木善幸	県立松代病院長	
副委員長	釜田富男	県立十日町病院事務長	
委員	福成博幸	県立十日町病院副院長	外科プログラム責任者
委員	河野充夫	県立十日町病院副院長	副プログラム責任者
委員	山崎元義	県立十日町病院診療部長	内科プログラム責任者
委員	山口征吾	県立十日町病院	救急・麻酔プログラム責任者
委員	肥田誠治	県立十日町病院	救急・麻酔副プログラム責任者
委員	山ノ井忠良	県立十日町病院	地域医療プログラム責任者
委員	高石光二	県立十日町病院	必修選択研修産婦人科プログラム責任者
委員	金山哲也	県立十日町病院	必修選択研修小児科プログラム責任者
委員	大塚道人	県立小出病院	必修選択研修精神科プログラム責任者
委員	高橋恒子	県立十日町病院看護部長	
委員	武藤謙介	魚沼地域振興局健康福祉部医監（十日町保健所長）	
委員	山口孝太郎	十日町中魚沼郡医師会：外部委員	
委員	駒形 喬	県立十日町病院事務長補佐	
委員	鈴木栄一	新潟大学医歯学総合病院臨床研修センター長	
事務局	桑原伸行	県立十日町病院庶務係長	

Ⅳ. 定員

1 年次生 3 名 2 年次生 3 名

採用については医師臨床研修マッチング協議会のマッチングに参加する。

研修希望者の選考は書類及び面接により、臨床研修管理委員会評価小委員会が行う。

欠員については、研修希望者に随時選考を行い、臨床研修管理委員会評価小委員会が評価決定する。

Ⅴ. 教育課程

(1) 研修方式

研修は基本研修 12 ヶ月（内科 6 ヶ月、救急・麻酔 3 ヶ月、外科 2 ヶ月、地域医療 1 ヶ月）、必修選択研修 2 ヶ月（小児科、産婦人科、精神科から選択）、自由選択研修 10 ヶ月をローテーション方式で研修する。

研修開始は内科において行い、医療・保険・安全管理など基本的な知識のオリエンテーションを行う。

選択研修ではより実践的研修や将来の専門研修を想定した研修を行う。

「経験すべき症候」「経験すべき疾患」については内科研修の間により多く経験できるよう、管理委員会が進捗状況を把握し、指導医に助言する。

研修医は研修開始後約 3 ヶ月以内に、プログラム調整小委員会に選択研修希望を提出する。プログラム調整小委員会は、研修希望と研修進捗状況と指導体制を考慮して、指導医と研修医と協議のもと選択研修を決定する。研修期間途中での期間割・研修科目の変更についても、プログラム調整小委員会に申し出て協議できる。

(2) 研修医の配置

研修期間は平成 24 年 4 月 1 日（日）から 26 年 3 月 31 日（火）までとする。

(3) 研修目標

医療人として必要な基本姿勢・態度を見につける。行動目標として①患者—医師関係②チーム医療③問題対応能力④安全管理⑤医療面接⑥症例呈示⑦診療計画⑧医療の社会性、については各ローテーション終了後に研修医と指導医双方から評価表を提出し、習得に努める。

経験目標については、経験すべき診察法・検査・手技、経験すべき症状・病態・疾患について、以下の要領でレポートと経験録を提出し、80%以上の経験をすることが目標である。

- 1) 各ローテーション後の研修記録と評価表提出
- 2) レポートの提出
- 3) 経験録の提出
- 4) 評価

(4) 勤務時間と日当直

勤務時間：午前8：30～午後5：15

研修時間は原則として1週40時間、1日8時間である。原則としてアルバイトは許可しない。

日当直：1年次は指導医（主当直）とともに、副当直として研修当直する。2年次は4回／月程度。

当直時間 午後5：15～翌午前8：30

当直中に経験する症例には経験すべき項目を多く含んでいるので、詳細に実習記録に記載する。

当直翌日が平日勤務に当たる場合は、勤務時間を制限することがある。

(5) 医局会など医局行事

医局会議：毎月第三水曜午後6：00～ 医局

カンファレンス：各診療科、公開検討会 隔月、地域検討会 隔月

CPC（病理研修を含む）： 月1回金曜日

VI. 研修終了後の進路

原則自由選択

研修病院・診療所勤務

出身大学への復帰

新潟大学医学部（大学院：勤務をしながら入学できる、社会人入学コースを含む）

十日町病院後期研修（シニアレジデント研修プログラム検討中）

専門医制度教育・認定施設取得状況

日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本内科学会

日本外科学会、日本脳外科学会、日本整形外科学会

VII. 研修医の処遇（平成23年度新潟県職員規程実績）

身分 非常勤特別職

給与など 給与 1年次生 月額 310,000円 2年次生 月額 340,000円

宿日直手当 支給

旅費 行政職（一）3級相当

休暇 有給休暇あり（夏季・年末年始特別休暇あり）

院内居室 研修医室あり、研修医仮眠室あり

宿泊施設 あり（一般医師用と併用、借り上げ宿舎）

社会保険 あり（公的医療保険、公的年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険など）

健康管理 定期健康診断あり

医師賠償責任保険 団体保険病院加入（個人加入は任意）

VIII. 連絡先（見学・受験など）

庶務係長 桑原伸行

〒948-0055 新潟県十日町市高山 32-9 新潟県立十日町病院 TEL/FAX 025-757-5566

メールアドレス keiei@tokamachi-hosp-niigata.jp

病院長 塚田芳久

メールアドレス tsukada@tokamachi-hosp-niigata.jp